

声をあげよう！ 仲間を広げよう！ 人間らしく働く権利の確立をめざして！

# パート・非常勤部会ニュース No. 6

大阪市北区錦町2-2 国労会館1F 大阪労連パート・非常勤部会

2011・6・6

## 第19回パート・派遣など非正規ではたらくなかまの 全国交流集会を長野で開催

6月4日(土)～5日(日)、長野市で全労連・非正規センターが主催する「非正規で働く仲間の全国交流集会」が開催され、大阪から19名が参加し、全国から2日間で約500名が参加をしました。

宮城、岩手、福島の被災地からの参加もあり、集会では136,035円のカンパが集まりました。

全労連の小田川事務局長は「ディーセント・ワークこそ最大の復興支援策。経団連は震災復興のためとして、有期契約、労働者派遣法、労働時間規制など171項目もの規制緩和を政府に要請している。集会で闘いの意思統一をしよう。最低賃金の引き上げにも頑張ろう」と挨拶を行いました。



### 記念講演

「ディーセント・ワークの実現を目指して」と題して牛久保秀樹弁護士が、「郵政職場は65%が非正規労働者。昨年8,438人の正社員化が実現した。正社員になったある郵便局の女性の給与明細を見せてもらったら、非正規時代は138,000円、正社員になっては252,000円で、一時金や諸手当などで、年収約200万円の増額になった。話を聞くと、正社員になって家族が一番喜んでくれたという声が多い。

ILOは、非正規は世界の労働者の問題と重要視している。『固定化された新しい階級ができていく?』というとらえ方がされ、今年末にILOでシンポジウムが開かれる予定。日本はILO条約188のうち、48しか批准(25%)をしていない。本当の開国はTPPではなく、せめて50%を批准したらどうか。21世紀のディーセント・ワークは自分の労働条件だけでなく、家族みんなが安心して働き生活できる社会を目指すべき」など、たいへんわかりやすく講演をされました。



### 集会の開催目的

- ① 東日本大震災被災者・被災地に連帯し、非正規に対する雇い等を許さず、住民本位の復興を勝ち取っていく。
- ② この間の取り組み、経験・教訓を全国的に交流する。
- ③ パート労働法、有期労働規制、ディーセント・ワークの実現など、非正規をめぐる重要課題について、学習し、意思統一する。
- ④ 要求実現の取り組みと結合した仲間増やしを進める。

日本医労連から映像を使って「東日本大震災の被害と支援」の特別報告、「均等待遇めざす丸子警報器のたたかいと現状」の映像、原告・滝沢さんからの報告も行われました。

## リレートーク

9人のリレートークが行われ、大阪から、「派遣法と有期雇用問題」でJMIUダイキン工業支部の青山さんが、「最低1000円要求をかかげた生協労連のたたかい」についておおさかパルコープ労組の中井さんが発言をしました。JMIUの愛知支部は「震災後、



ブラジル人労働者の多くが帰国をしている。出勤が1日・2日しかなく、休業補償がもらえない。雇用も1ヶ月・2ヶ月で貧しい生活。子どもは日本にいたいと言う。不安定雇用がきっかけ」と発言し、福井県労連、地域労組の河本さんは「パナソニックで月128時間残業をし、年間3358時間働いていた。派遣や請負会社ではなくパナソニックに貢献してきた。派遣法違反で労働局の是正が入ると時間給810円のアルバイト(月収が半分)にして、解雇された。団交を拒否され、裁判を闘っている。派遣法はザル法だ」と力強く訴えました。

## 夕食交流会



## 2日目の分科会



## 集会終了後、パレード



2日目は7つの分科会と3つの入門講座が行われました。「仲間作りのなやみと喜びなど交流会」では、36人が参加。委託労働者も参加して「今日のことを勉強していきたい」と語り、全厚生の組合員は「臨時雇いだけれど、声をかけてもらって良かった。1人で悩んで、自分の中で解決するのではなく、色々と意見交換するのがいい」と発言しました。日常活動の強化、あきらめないこと、非正規の賃上げを組合が本気で取り組むこと、要求を団交で粘り強くたたかうこと、などが語られ、実情や経験交流をしました。